

がんと就労

荒井 亨

平成二十七年に逋信病院で不整脈の検査を受け、左右甲状腺がんが見つかり、ステージ4と診断されました。

平成二十八年に京都逋信病院にひと月入院して、一月中旬に左右甲状腺がん転移の摘出手術を受けました。

手術後に心配していた抗がん剤治療の副作用はありませんでした。副作用は、抗がん剤の種類や投与期間及びその頻度により大きく異なるし、その発現には個人差もあると言われました。

手術後に主治医に聞いたところ、手術の延べ時間は、開始から目が覚めるまで十一時間だったとのことでした。

「がんと就労」ということについて、がんになってから働けるかどうかは、自分がどのような状態で、どのくらい働けるのか、何ができて、何ができないかを考えて判断し、きちんと周囲に伝えていくことが大切だと私は思っています。

現在、私は障がい者施設のグループホームで働いています。夕方十八時に勤務を開始し、仮眠休憩午前二時から午前五時の三時間を挟んで、十時明けの十六時間拘束での仕事です。

仕事内容は障がい者さんの食事介助や、入浴介助などを含めて、生活にかかわる支援の介助全般と、グループホームを清潔にしておくつるける空間づくりをすることです。

普段、障がい者さんはグループホームからデイサービスに通所したりしていますが、中には他の施設や企業に通勤されている方もいらっ

しゃいます。つまり、私はそういう障がい者さんが日常生活を自然体にごすことができるように支援する世話人というわけです。

私が「がん」になった時、主治医からは仕事を辞めなさいとは言われませんでした。「状況を考えて、あなたが判断をしてください。施設にはきちんと伝えて、遠慮なくおっしゃってください」と言われました。

普通、従業員が「がん」になった場合、「がん＝死」と結びつけ、退職を迫る企業が多いのは事実です。

しかし、私の勤務している所は障がい者を支援する特定非営利活動法人なので、「がんと就労」ということについても、上司はよく理解してくれています。

ただし、周囲に迷惑をかけないよう、身体が動かなくなったり、仕事ができなくなったりする三か月前には、この先どうするかを判断したいと考えています。

左右甲状腺がんの手術を受けてから、今年の一月で六年目になります。あと四年は京大病院放射線科と京都逋信病院耳鼻咽喉科に通院することにしています。

今回、京都逋信病院でCT検査の結果、新たに胆嚢に十二センチのポリープが見つかり、一月十九日胃カメラ検査を受けます。その状況によつては、MRI検査、またはPET検査ということになるかもしれないと思っています。

こうした身体の不安はあるものの、できるだけ無理をせず自然体で普通に生き続け、仕事は生活の一部ととらえて、これからも働いていきたいと考えています。



戸隠神社参道の杉並木・入口の大鳥居から奥社までは2 km
Photo©T.Arai



参道途中にある隋神門 Photo©T.Arai